

# メンタライゼーションと援助規範意識が嘘の認識に及ぼす影響

— 性差・世代差に注目して —

○ 亀本彩夏・生塩詞子

(安田女子大学大学院文学研究科)

## 研究の目的

本研究では、性別・世代・子どもの有無・職業の有無による嘘の認識の違いを明らかにすること、嘘の認識に影響する要因を明らかにすることを大きな目的とした。具体的には、性別および世代による嘘の認識の比較、性別および子どもの有無による嘘の認識の比較、性別および職業による嘘の認識の比較、嘘の認識にメンタライゼーションと援助規範意識が関わっているのかについて検討することを目的とした。

## 方法

**調査対象者:** 10代から60代の175名うち有効回答数174名(平均年齢=30.4, SD=13.9)。

(男性38人・女性135人・Xジェンダー1人)

**調査時期:** 2021年8月2日～2021年8月30日

**調査方法:** Google Formを利用した質問紙法。

**質問紙の構成:** (1) ①性別②年齢③子どもの有無④職業, (2) 予備調査で得られた嘘の認識尺度, (3) メンタライゼーション尺度(山口, 2016), (4) 猪田・栗原・尾形・大木(2009)によって再構成された援助規範意識尺度, (5) 嘘によって人間関係に支障が出た経験について自由記述で回答を求めた。

## 結果

独自に作成した嘘の認識尺度について探索的因子分析を行ったところ、肯定的認識( $\alpha=.81$ ), 関係維持( $\alpha=.80$ ), トラブル回避( $\alpha=.84$ )の3因子が得られた。本稿では性別による嘘の認識に及ぼす要因の違いについて報告する。

## 考察

男性のみのデータ・女性のみのデータを対象に、メンタライゼーション(対自的メンタライゼーション・対他的メンタライゼーション)および援助規範意識(自己犠牲規範意識・弱者救済規範意識・返済規範意識)を説明変数、嘘の認識(肯定的認識・関係維持・トラブル発生回避)を目的変数としてステップワイズ法による重回帰分析を行ったところ、女性においてのみ、対他的メンタライゼーションから肯定的認識・トラブル回避因子へ有意な正の回帰係数が確認された。(肯定的認識:  $R^2$

$=.18, \beta=-.26, p<0.01$ , トラブル回避:  $R^2$

$=.17, \beta=.18, p<0.05$ , )

対他的メンタライゼーションが影響を及ぼしていた肯定的認識因子には嘘をついてことが穏便に収まるのならばよいという項目が、トラブル回避因子には、相手を傷つけないための嘘ならついてもよいという項目が含まれている。これらの嘘をつくとき、嘘をつく側は「本当のことを言うと相手が怒る」ということを読み取っている、対他的メンタライゼーション能力が働いているといえる。さらに、対他的メンタライゼーションを男女で比較したところ、女性の方が有意に高い得点を示した、つまり、女性の方が、対他的メンタライゼーション能力が高いということが推察される。これらのことから、女性においてのみ、他者の気持ちを推察する能力の高さが「相手にバレない嘘ならばついてもよい」「相手を傷つけない嘘ならついてもよい」という認識の強さにかかわるのではないかと考察した。

こうした嘘の認識の違いを理解することで、円滑なコミュニケーションをとることが可能になるのではないかと考える。

表1 嘘の認識尺度に対する重回帰分析

重回帰分析(男性)			
	肯定的認識	関係維持	トラブル回避
説明変数	$\beta$	$\beta$	$\beta$
対自的メンタライゼーション	—	—	—
対他的メンタライゼーション	—	—	—
自己犠牲規範意識	-0.47 **	—	-0.53 **
弱者救済規範意識	—	—	0.36 *
返済規範意識	—	0.35 *	—
$R^2$	0.22 **	0.12 *	0.21 *

N=38

重回帰分析(女性)			
	肯定的認識	関係維持	トラブル回避
説明変数	$\beta$	$\beta$	$\beta$
対自的メンタライゼーション	—	—	—
対他的メンタライゼーション	0.26 **	—	0.18 *
自己犠牲規範意識	-0.36 **	-0.33 **	-0.35 **
弱者救済規範意識	—	0.23 **	0.22 *
返済規範意識	—	—	—
$R^2$	0.18 **	0.12 **	0.17 **

N=135

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$